

石川県教育委員会との懇話会

1 日 時 平成30年10月29日(月) 16:00～17:30

会 場 文教会館 202会議室

2 懇話会テーマ

○学力状況調査より

①石川県の調査結果

②家庭環境や保護者の働きかけと学力の関係性から家庭できること

- ・質問紙調査から家庭環境と学力との関係性について
- ・国立教育施策研究所の「保護者に対する調査」結果について
非認知スキルと子どもの学力
家庭環境と子どもの学力

*保護者のどのような関わりで子どもが様々なことに意欲的に取り組むようになるか
参考資料「PEP TALK」(東海北陸ブロック研究大会記念講演資料)

3 県教育委員会から話題提供

- ・全国学力状況調査は、国が毎年50億円かけて実施している。
- ・教育の機会均等、どこへ行っても同じようなレベルの教育を受けられるようにするための調査
- ・できぐあいを順位付けするのが目的ではない。
- ・国の調査は平成19年度から実施。石川県は独自に平成14年度から実施。
- ・子どもたちはもちろん頑張っているが、石川県の先生方が他県に比べて、この調査結果をととても大切にし、出た結果を共有し授業改善に役立てている。
- ・本県では、金沢大学と連携し結果分析を行い授業改善の冊子を作成している。
- ・親子のふれあい、朝食、読書などいろいろなことが学力に影響している。

<家庭環境と学力の関係性>

*国が実施した質問紙調査による分析より

○学力のよい群の子どもたちの様子として見えてきたこと

- ・朝食をきちんと取っている。
- ・規則正しい生活(決まった時間に寝る、起きる)
- ・計画を立てている。
- ・丁寧に宿題をする。
- ・家の人とのコミュニケーションが良好
- ・地域との関わりがある。行事に参加など
- ・新聞を読んでいる。社会の出来事に関心がある。

○家庭的に恵まれない子どもで学力のよい群で見えてきたこと

- ・非認知スキルといわれる自尊心、意欲、忍耐力、コミュニケーション力を高める働きかけを保護者がしていることと緩やかであるが相関性がある。
- ・保護者が、よいところを褒める。努力したこと、やり抜いたこと、異なる意見のよさを活かし折り合いを付けたことなど

- ・ 知的好奇心の刺激

本や新聞を読む、体験的に外国語や外国の文化に触れるようにする。

子どもたちの関心のあることに支援する。

- ・ しっかりとした家庭学習

計画的な勉強を促す。復習重視。家庭学習の習慣化。

- ・ 結果だけにこだわらず、頑張ったことを褒める、認める。
- ・ 子どもとの会話が深い。将来のこと、世の中の出来事などを話題に
- ・ 学校行事に親子で参加している。
- ・ 学校に対して親和的である。

4 話し合い

県P連：クロス集計は文科省のデータですか。

県教委：文科省のデータで、石川県に特化したデータはない。おそらく県内のデータを出しても同じような結果になると思う。

県P連：石川県の教育現場で他県と違う独特なものがありますか。

県教委：家庭と学校の距離が近い。学校へ委員会が行っている。（指導、相談等々）

県P連：通知票は、全国どこでも渡していると思っていたが、渡していないところや面談をしながら親に渡すことをしていないところもあると聞いた。

県教委：石川県にいたら当たり前だが、それが当たり前に見えるというのは、そういう教育が強く昔から根付いている地域なのだと思う。

会 長：今日のデータが全てだと判断することはできないと思うが、「リテラシー」がキーワードと思った。いずれにしても親自身が学び続け、親が成長することが、結局子どもに大きな影響を与えるのではないかと思う。ありがとうございました。